

新河岸川流域水循環マスター プランの検討に向けた動向

新河岸川流域では、都市化に伴って、洪水時の河川流量が増加したり、平常時の河川水量が減少するなど、水に関するさまざまな問題を抱えています。このような水に関する問題に対して、川だけではなく流域全体の視点（水循環の視点）で解決していくことを目指して、新河岸川流域で計画づくりを進めています。

【近年における検討状況について】

新河岸川流域水循環マスター プランの策定に向けて、市民・学識・行政が一体となって意見交換や検討を行っています。

第2回 検討委員会

第2回 検討委員会の様子
平成28年の10月4日(火)に計画策定に向けて、今後の検討方針、流域の特徴や課題などについて議論を行う場として第2回検討委員会が開催されました。

第2回 市民懇談会

第2回 市民懇談会の様子
平成29年の3月13日(月)に検討委員会と作業部会の結果報告と流域における重点テーマや流域全体の共通テーマの議論を行う場として第2回市民懇談会が開催されました。

第3回 作業部会

第3回 作業部会の様子
平成30年の1月11日(木)に流域内の行政とマスター プランの検討経緯や骨子案、アクションプランの検討方針の確認などをを行う場として第3回作業部会が開催されました。

第2回 市民部会

第2回 市民部会の様子
平成30年の2月9日(金)に流域内の市民部会委員とマスター プランの検討経緯や骨子案、アクションプランの検討方針の確認などをを行う場として第2回市民部会が開催されました。

イベント紹介!! 志木さくらフェスタ いろはの渡し

● 志木市観光協会事務局より提供

志木市観光協会では、かつて舟運で栄えたまちであることなどの歴史を後世に伝えていくため、和舟の就航を行います。舟の上では新河岸川舟唄を流すとともに、志木が誇る県指定文化財「田子山富士塚」の案内もします。

- 開催日時 平成30年3月31日(土)、4月1日(日) 午前10時~12時20分・午後1時~3時
- 開催場所 いろは親水公園 新河岸川左岸船着場 ○対象:小学生以上(小学3年生までは保護者同伴)
- 参加方法 当日午前9時30分より、船着場にて乗船券を販売(各日先着120名) ○乗船料 1人100円
- 問合せ先 048-473-1111(内線2164) 志木市観光協会事務局(志木市産業観光課内)

事務局だより

第3回連絡会が開催されました

1月30日(火)に第3回新河岸川流域川づくり連絡会が開催されました。第3回連絡会では、2月に開催した「第13回川でつながる発表会」のプログラムや現地見学会の見学施設・コースなどについて協議しました。

また、勉強会では新河岸川流域における渇水に関する取り組みや対策などについて意見交換を行いました。



第3回連絡会の様子

川づくり連絡会に参加してみませんか?

新河岸川流域川づくり連絡会は、年4回程度開催しています。参加希望の方は下記の連絡先までお問い合わせください。

しんぶん「里川」掲載情報を大募集します!

各地域での活動報告やイベント情報を募集しています。川に関する身近な情報などを手紙またはFAX・メールにて下記連絡先までお寄せ下さい。

■連絡先

新河岸川流域川づくり連絡会 事務局
(国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所調査課内)
〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346
URL http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/arage_index044.html

THE SHINGASHI BASIN NEWS

新河岸川流域しんぶん 里川 SATO GAWA

VOL.85

発行・新河岸川流域川づくり連絡会(荒川下流河川事務所 調査課内)
住所・東京都北区志茂5-41-1 TEL03-3902-3220 FAX03-3902-2346
発行日・平成30年(2018)3月13日



切り絵 毛利将範

目次

- P2~3 第13回川でつながる発表会の開催報告!!
- P4 新河岸川流域水循環マスター プランの検討に向けた動向
- イベント紹介!!
- 事務局だより
- P5 特集:流域を守る市民団体の活動を知ろう!!

さくら 桜のつぼみも膨らんで春の訪れを告げています
ですが、皆様いかがお過ごですか。
こんごう がつ にち にち ところざわ かいさい
今号は2月11日(日)にラーク所沢で開催した
だい かいわ はつようかわ かいさいほうこく けいさい
第13回川でつながる発表会の開催報告を掲載し
れんさい きんねん しんがしがわりゅういきみず
ます。連載では、近年における新河岸川流域水
じゅんかん どうこう つた とくしう
循環マスター プランの動向をお伝えします。特集
しみんだんたい じっし かわ む
では、市民団体に実施した、いい川づくりに向け
ぎょうせいかん しみん わんれい かん
た行政間、市民との連携などに関するインタビュー
ないう しょうかい
一の内容を紹介します。



第13回川でつながる発表会の開催報告！！

2月11日(日)にラーグ所沢で開催された「川でつながる発表会」は今回で13回目となります。学生や市民団体が行った新河岸川流域の川や自然に関する観察結果や研究成果の発表は、今年も力作ぞろいで、来場者は熱心に耳を傾けていました。

■当日プログラム

時 間	内 容	
09:30	受付	
10:00	開会 あいさつ	午前の部（現地見学会）の開会に先立ち、荒川下流河川事務所調査課長より、「一人ひとりが川について、より考えていただける場になれば良いと考えております。よろしくお願ひいたします。」という挨拶がありました。
10:10	現地見学会	今年の現地見学会は、砂川堀雨水幹線（下富調整池）、多福寺、大井弁天の森の3つを対象に行いました。また、バス移動中では、所沢市の職員より、しんぶん里川（第84号）の特集に記載の河川に関する取り組みについて説明がありました。参加者は興味を持って話を聞き、説明後は様々な質問が飛び交っていました。
13:00	あいさつ	午後の部（発表会・交流会）の開会に先立ち、荒川下流河川事務所長より、「発表内容、パネル展示などを通じ、人とも通じ合って、自分の活動に反映していただければ良いと思っております。」という挨拶がありました。
発表会	発表（前半） 質問 コメント	発表会の前半は、自由学園男子部高等科、埼玉県立川越女子高等学校、早稲田大学理工学部より発表がありました。主に、新河岸川流域における生物の生態や分布、狭山丘陵や三富新田の特性などについて発表がありました。
	発表（後半） コメント 質問	発表会の後半は、所沢市立上山口中学校、法政大学水文地理学研究室より発表がありました。主に、新河岸川流域を対象とした水質調査に関する結果報告や今後の課題などについて発表がありました。
14:30	交流会	来場者に新河岸川流域における水循環や総合治水に興味を持っていたため、学校、市民団体、行政などが作成した力作のパネルの展示がありました。さらに、法政大学水文地理学研究室による水質調査を体験するブース、総合治水を題材とした紙芝居、新河岸川流域における歴史やできごとを記憶から呼び起こし、情報を流域の地図上に集約して、共有する「流域誌をつくろう！」といった様々な企画を実施し、来場者の多くの方々に水循環や総合治水について理解を深めていただきました。
15:20	クイズ答 え合 わせ / 表彰 状授 与 / 総括	荒川下流河川事務所長より、各発表校の代表者へ表彰状が授与されました。表彰状を受け取った後は、みなさんとても満足そうでした。最後に新河岸川水系水環境連絡会より、「いろいろな人たちと交流できる場を設けていただきて、非常にありがとうございました。本日は、お疲れ様でした」という挨拶がありました。
16:00	閉会 記念撮影	毎年恒例の記念撮影は、学校や世代を超えてつながる一体感を感じさせる一コマでした。発表会にご参加・ご協力いただいたみなさま、どうもありがとうございました。

1 自由学園 男子部 高等科……生物多様性の視点から考える

自由学園男子部高等科の川管理グループからは、学園内を流れる立野川の水温・流量などの測定、立野川周辺の除草、生物調査など、日々の活動について発表がありました。普段、立野川にいるはずのない金魚や改良メダカが確認され、望ましい環境ではないことや、底生生物の調査の際には特定外来生物であるアメリカザリガニとオオカワヂシャが確認されたと説明がありました。また、最後にはアメリカザリガニへの対処方法として自分たちで考えた結果を発表し、来場者は興味を持って聞いていました。



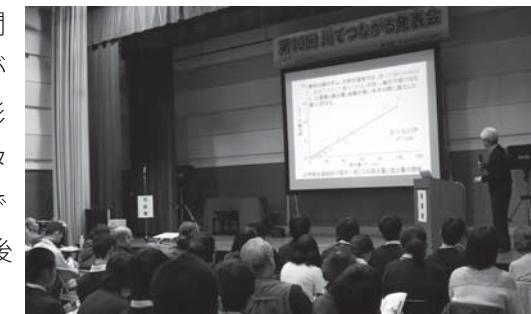
2 埼玉県立川越女子高等学校……新河岸川周辺の河川における外来生物カラスマエビ属・在来ヌカエビの分布調査

埼玉県立川越女子高等学校からは、新河岸川周辺の河川における在来エビと外来エビの分布調査結果について発表がありました。調査結果からは、外来エビは調査を実施した全てのポイントで分布が確認されました。在来エビの分布は非常に少ないと分かり、今後においては在来エビの保護が必要であると説明がありました。継続的にデータを収集して出した結果や考察について、コメントターも、その活動を讃えるとともに、ぜひ後輩にもつなげて欲しいとのコメントがありました。



3 早稲田大学 理工学部……狭山丘と所沢と雑木林と川 樽井戸川源流部の涵養源である雑木林の萌芽再生

早稲田大学理工学部からは、狭山丘陵や三富新田の概要やその管理に関する発表がありました。狭山丘陵は首都圏における緑の孤島と呼ばれ、人が立ち入ることが少ないと、三富新田については、昔からの伝統的な利用形態や歴史などについて説明がありました。また、管理にあたっては、常にモニタリングを行い、その結果に合わせて、対応を変える考え方を持つことが重要であると説明がありました。開催地である所沢市に関する話に、来場者は発表後「ためになった」、「共感した」と記載された感想カードを掲げていました。



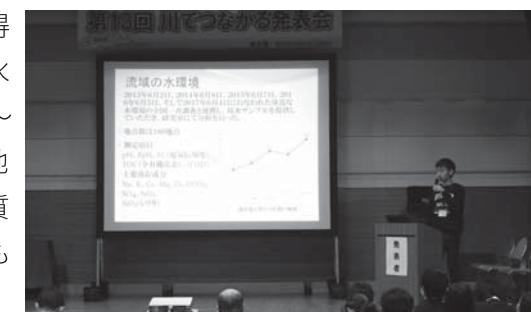
4 所沢市立上山口中学校……柳瀬川の水質と環境

所沢市立上山口中学校からは、柳瀬川の水質結果について発表がありました。柳瀬川の生活排水が流れている場所を基点とした上下流 3 地点や狭山湖～安松橋の間の 10 地点における COD の計測結果や、ある 3 地点において川清掃などボランティア活動によって川が綺麗になっていると説明がありました。発表された方も、川の水質を良くするために、川全体を綺麗にすることが大切であると述べ、事務局も改めて川の水質をよくしたりするためには、まずは、継続的に川をきれいにすることであると、原点に立ち返ることができた発表でした。



5 法政大学 水文地理学研究室……身近な水環境の全国一斉調査の水質分析結果から見た新河岸川流域の地域特性

法政大学水文地理学研究室からは、新河岸川流域川づくり連絡会の協力を得て、2017 年 6 月 4 日に行われた「全国身近な水環境一斉調査」の中で採水された 180 地点のサンプル分析結果について発表がありました。2013 年～2017 年にかけて、一斉調査と連携して研究を行ってきたこともあり、より地域特性を表すことができた結果になったと説明がありました。しかし、水質を改善しなければならない地点は流域内にまだ数多く存在するため、今後も連絡会と連携しながら活動を行いたい！と前向きな気持ちを述べていました。

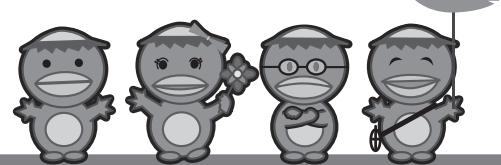




今年度の「新河岸川流域しんぶん里川」の特集では、新河岸川流域で川に関する取り組みを行っている学校や行政、市民団体の方々にインタビューをさせて頂き、治水対策や健全な水循環の維持に関する活動を行っている方々の想いなどを流域に住むみなさんにお届けします！

第83号特集では「学校の活動」、第84号特集では「行政の活動」を紹介しました。

今号では、新河岸川流域で環境保全活動をされている新河岸川水系水環境連絡会の菅谷さんにインタビューをさせて頂き、普段の活動やその様子、行政や市民との連携などについて紹介します！



新河岸川水系水環境連絡会について

新河岸川水系水環境連絡会では、東京都と埼玉県にまたがる新河岸川本川および各支川の全流域で、河川浄化、自然環境の保全・回復を図り、それをまちづくりに生かすことを目指し、活動を行っています。主には、流域の市民団体、学校、行政などとの交流や意見交換、新河岸川流域川づくり連絡会への参加、河川環境の調査「身近な川の一斎調査」などで得られたデータの分析や調査結果から必要な対策を練り、関係団体とともに水環境改善に向けた方策の検討などを行っています。



身近な川の一斎調査の様子

調査の結果をとりまとめたパネルの作成

新河岸川水系水環境連絡会では、毎年実施している「身近な川の一斎調査」などで得られたデータを基に新河岸川流域における問題や改善策などを整理しています。

第13回川でつながる発表会でもパネルの展示を行い、主に新河岸川流域におけるアユの生態や保全などについてとりまとめ、多くの参加者が見ていました。



第13回川でつながる発表会でのパネルの展示

やってます！川まつり！

毎年夏頃に、流域住民との交流と各市民団体の取り組みなどを知って頂くために、新河岸川流域の各支川にて「川まつり」を開催しています。各市民団体は「川まつり」の企画検討・当日の運営などを行っています。

川まつりでは、参加者と一緒にゴミ拾いをしたり、子どもたちと一緒に川の中に入り、魚捕りや捕った魚に関するクイズなどを行っています。



ゴミ拾いの様子



川遊びの様子

新河岸川流域川づくり連絡会への参加

新河岸川流域川づくり連絡会は、新河岸川流域で活動している市民団体の代表者が集まり、各支川間での市民同士の情報交換や、市民と行政の情報交換のために開催しています。新河岸川水系水環境連絡会も定期的に参加しています。連絡会の前半では、連絡会の活動方針や毎年開催している「川でつながる発表会」の運営方針について話し合い、後半では、学識経験者による水質調査などに関する情報提供や意見交換を行う勉強会を開催しています。



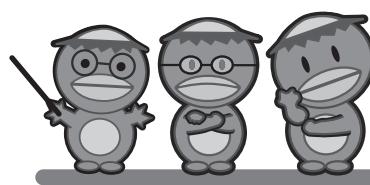
新河岸川流域川づくり連絡会の様子

流域を守る活動に携わって思うこと・・

新河岸川水系水環境連絡会の菅谷さんより

これまで川に関する活動に携わらせてもらいましたが、多くの方々と情報の交換をしたり、川を少しでも良くしたいという意志を共有したりと、とても楽しく活動をさせて頂いています。これからも川の関係でできたつながりは大切にしたいですね。

また、今後も川に関する活動を続けていきますが、川に関する活動の「面白さ」を忘れずに取り組みたいと思っています。



インタビュー時の菅谷さん